【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成19年5月10日(2007.5.10)

【公表番号】特表2002-538219(P2002-538219A)
【公表日】平成14年11月12日(2002.11.12)
【出願番号】特願2000-603708(P2000-603708)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　39/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/385　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/39　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　1/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　1/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　7/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　9/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　15/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　19/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　19/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/04　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　14/475　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　14/50　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　17/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　39/00　Ｈ
Ａ６１Ｋ　39/385
Ａ６１Ｋ　39/39
Ａ６１Ｐ　1/00
Ａ６１Ｐ　1/04
Ａ６１Ｐ　7/06
Ａ６１Ｐ　9/00
Ａ６１Ｐ　15/00
Ａ６１Ｐ　17/00
Ａ６１Ｐ　17/06
Ａ６１Ｐ　19/00
Ａ６１Ｐ　19/02
Ａ６１Ｐ　27/02
Ａ６１Ｐ　27/06
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　35/02
Ａ６１Ｐ　35/04
Ｃ０７Ｋ　14/475　ＺＮＡ
Ｃ０７Ｋ　14/50
Ｃ０７Ｋ　17/02

【手続補正書】
【提出日】平成19年3月12日(2007.3.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　線維芽細胞増殖因子の免疫原性ペプチドフラグメント及び製薬的に許容可能な担体を含む免疫原性組成物。
【請求項２】　前記免疫原性ペプチドが線維芽細胞増殖因子のヘパリン結合ドメインに相当する請求項１に記載の組成物。
【請求項３】　前記免疫原性ペプチドのアミノ酸配列が配列番号１及び２の配列を含む請求項１に記載の組成物。
【請求項４】　前記製薬的に許容可能な担体がリポソーム、金コロイド及び担体タンパク質を含む請求項１に記載の組成物。
【請求項５】　前記担体タンパク質がマルトース結合タンパク質、ウシ血清アルブミン、キーホールリンペット・ヘモシアニン、卵白アルブミン、フラジェリン、チログロブリン、血清アルブミン、γ－グロブリン、同系細胞、並びにＤ－及び／又はＬ－アミノ酸のポリマーを含む請求項４に記載の組成物。
【請求項６】　アジュバント、保存剤、希釈剤、乳化剤及び安定化剤を更に含む請求項４に記載の組成物。
【請求項７】　前記アジュバントが脂溶性ムラミルジペプチド誘導体、非イオン性ブロックポリマー、水酸化アルミニウム、リン酸アルミニウム、脂質Ａ、フロイント不完全アジュバント、フロイント完全アジュバント、多分散β－（１，４）結合アセチル化マンナン、ポリオキシエチレン－ポリオキシプロピレンコポリマーアジュバント、サポニン誘導体アジュバント、死滅百日ぜき菌、グラム陰性菌のリポ多糖、ポリマー陰イオン、硫酸デキストラン、無機ゲル、ミョウバン、水酸化アルミニウム及びリン酸アルミニウムからなる群から選択される請求項６に記載の組成物。
【請求項８】　前記免疫原性ペプチドと結合した疎水性部分を更に含む請求項１に記載の組成物。
【請求項９】　前記疎水性部分が脂質バックボーンに少なくとも１０個の炭素原子を有する少なくとも１個の長鎖脂肪酸を含む請求項８に記載の組成物。
【請求項１０】　前記疎水性部分がパルミチン酸、ステアリン酸、ミリスチン酸、ラウリン酸、オレイン酸、リノール酸及びリノレン酸からなる群から選択される請求項８に記載の組成物。
【請求項１１】　血管内皮増殖因子の免疫原性ペプチドフラグメント及び製薬的に許容可能な担体を含む免疫原性組成物。
【請求項１２】　前記免疫原性ペプチドフラグメントが血管内皮増殖因子のレセプター結合ドメインに相当する請求項１１に記載の組成物。
【請求項１３】　前記免疫原性ペプチドのアミノ酸配列が配列番号３～９の配列を含む請求項１１に記載の組成物。
【請求項１４】　前記の製薬的に許容可能な担体がリポソーム、金コロイド及び担体タンパク質を含む請求項１１に記載の組成物。
【請求項１５】　前記担体タンパク質がマルトース結合タンパク質、ウシ血清アルブミン、キーホールリンペット・ヘモシアニン、卵白アルブミン、フラジェリン、チログロブリン、血清アルブミン、γ－グロブリン、同系細胞、並びにＤ－及び／又はＬ－アミノ酸のポリマーを含む請求項１４に記載の組成物。
【請求項１６】　アジュバント、保存剤、希釈剤、乳化剤及び安定化剤を更に含む請求項１４に記載の組成物。

【請求項１７】　前記アジュバントが脂溶性ムラミルジペプチド誘導体、非イオン性ブロックポリマー、水酸化アルミニウム、リン酸アルミニウム、脂質Ａ、フロイント不完全アジュバント、フロイント完全アジュバント、多分散β－（１，４）結合アセチル化マンナン、ポリオキシエチレン－ポリオキシプロピレンコポリマーアジュバント、サポニン誘導体アジュバント、死滅百日ぜき菌、グラム陰性菌のリポ多糖、ポリマー陰イオン、硫酸デキストラン、無機ゲル、ミョウバン、水酸化アルミニウム及びリン酸アルミニウムからなる群から選択される請求項１６に記載の組成物。
【請求項１８】　前記免疫原性ペプチドと結合した疎水性部分を更に含む請求項１４に記載の組成物。
【請求項１９】　前記疎水性部分が脂質バックボーンに少なくとも１０個の炭素原子を有する少なくとも１個の長鎖脂肪酸を含む請求項１８に記載の組成物。
【請求項２０】　前記疎水性部分がパルミチン酸、ステアリン酸、ミリスチン酸、ラウリン酸、オレイン酸、リノール酸及びリノレン酸からなる群から選択される請求項１８に記載の組成物。
【請求項２１】　線維芽細胞増殖因子及び血管内皮増殖因子の免疫原性ペプチドフラグメント並びに製薬的に許容可能な担体を含む免疫原性組成物。
【請求項２２】　線維芽細胞増殖因子の前記免疫原性ペプチドフラグメントが線維芽細胞増殖因子のヘパリン結合ドメインに相当しそして血管内皮増殖因子の前記免疫原性ペプチドフラグメントが血管内皮増殖因子のレセプター結合ドメインに相当する請求項２１に記載の組成物。
【請求項２３】　前記の製薬的に許容可能な担体がリポソーム、金コロイド及び担体タンパク質を含む請求項２２に記載の組成物。
【請求項２４】　前記担体タンパク質がマルトース結合タンパク質、ウシ血清アルブミン、キーホールリンペット・ヘモシアニン、卵白アルブミン、フラジェリン、チログロブリン、血清アルブミン、γ－グロブリン、同系細胞、並びにＤ－及び／又はＬ－アミノ酸のポリマーを含む請求項２３に記載の組成物。
【請求項２５】　アジュバント、保存剤、希釈剤、乳化剤及び安定化剤を更に含む請求項２３に記載の組成物。
【請求項２６】　前記アジュバントが脂溶性ムラミルジペプチド誘導体、非イオン性ブロックポリマー、水酸化アルミニウム、リン酸アルミニウム、脂質Ａ、フロイント不完全アジュバント、フロイント完全アジュバント、多分散β－（１，４）結合アセチル化マンナン、ポリオキシエチレン－ポリオキシプロピレンコポリマーアジュバント、サポニン誘導体アジュバント、死滅百日ぜき菌、グラム陰性菌のリポ多糖、ポリマー陰イオン、硫酸デキストラン、無機ゲル、ミョウバン、水酸化アルミニウム及びリン酸アルミニウムからなる群から選択される請求項２５に記載の組成物。
【請求項２７】　有効量の線維芽細胞増殖因子の免疫原性ペプチドフラグメント及び製薬的に許容可能な担体を含むヒト又は動物の癌又は高増殖性疾患の治療用組成物。
【請求項２８】　前記免疫原性ペプチドフラグメントが線維芽細胞増殖因子のヘパリン結合ドメインに相当する請求項２７に記載の組成物。
【請求項２９】　前記免疫原性ペプチドフラグメントのアミノ酸配列が配列番号１及び２の配列を含む請求項２７に記載の組成物。
【請求項３０】　前記製薬的に許容可能な担体がリポソーム、金コロイド及び担体タンパク質を含む請求項２７に記載の組成物。
【請求項３１】　前記担体タンパク質がマルトース結合タンパク質、ウシ血清アルブミン、キーホールリンペット・ヘモシアニン、卵白アルブミン、フラジェリン、チログロブリン、血清アルブミン、γ－グロブリン、同系細胞、並びにＤ－及び／又はＬ－アミノ酸のポリマーを含む請求項２７に記載の組成物。
【請求項３２】　アジュバント、保存剤、希釈剤、乳化剤及び安定化剤を更に含む請求項２７に記載の組成物。
【請求項３３】　前記高増殖性疾患が血管腫、充実性腫瘍、血液由来腫瘍、白血病、転移

、毛細血管拡張症、乾癬、強皮症、化膿性肉芽腫、心筋血管形成、クローン病、プラーク血管新生、脳動静脈奇形、角膜疾患、ルベオーシス、血管新生性緑内障、糖尿病性網膜症、水晶体後線維増殖症、関節炎、糖尿病性血管新生、黄斑変性、創傷治癒、消化性潰瘍、ヘリコバクター関連疾患、骨折、ケロイド、血管形成、造血、排卵、月経、胎盤形成及びネコひっかき熱を含む請求項２７に記載の組成物。

【請求項３４】　有効量の血管内皮増殖因子の免疫原性ペプチドフラグメント及び製薬的に許容可能な担体を含むヒト又は動物の癌又は高増殖性疾患の治療用組成物。

【請求項３５】　前記免疫原性ペプチドフラグメントが血管内皮増殖因子のレセプター結合ドメインに相当する請求項３４に記載の組成物。

【請求項３６】　前記免疫原性ペプチドフラグメントのアミノ酸配列が配列番号３～９の配列を含む請求項３４に記載の組成物。

【請求項３７】　前記製薬的に許容可能な担体がリポソーム、金コロイド及び担体タンパク質を含む請求項３４に記載の組成物。

【請求項３８】　前記担体タンパク質がマルトース結合タンパク質、ウシ血清アルブミン、キーホールリンペット・ヘモシアニン、卵白アルブミン、フラジェリン、チログロブリン、血清アルブミン、γ－グロブリン、同系細胞、並びにＤ－及び／又はＬ－アミノ酸のポリマーを含む請求項３４に記載の組成物。

【請求項３９】　アジュバント、保存剤、希釈剤、乳化剤及び安定化剤を更に含む請求項３４に記載の組成物。

【請求項４０】　前記高増殖性疾患が血管腫、充実性腫瘍、血液由来腫瘍、白血病、転移、毛細血管拡張症、乾癬、強皮症、化膿性肉芽腫、心筋血管形成、クローン病、プラーク血管新生、脳動静脈奇形、角膜疾患、ルベオーシス、血管新生性緑内障、糖尿病性網膜症、水晶体後線維増殖症、関節炎、糖尿病性血管新生、黄斑変性、創傷治癒、消化性潰瘍、ヘリコバクター関連疾患、骨折、ケロイド、血管形成、造血、排卵、月経、胎盤形成及びネコひっかき熱を含む請求項３４に記載の組成物。

【請求項４１】　増殖因子に対する免疫応答を必要としているヒト又は動物の治療用組成物であって、前記組成物の有効量をヒト又は動物に投与したとき、該組成物が線維芽細胞増殖因子に関して免疫原性であるように線維芽細胞増殖因子の免疫原性ペプチドフラグメント及び製薬的に許容可能な担体を含むことを特徴とする組成物。

【請求項４２】　前記免疫原性ペプチドフラグメントが配列番号１及び２の配列を含む請求項４１に記載の組成物。

【請求項４３】　前記製薬的に許容可能な担体がリポソーム、金コロイド及び担体タンパク質を含む請求項４１に記載の組成物。

【請求項４４】　増殖因子に対する免疫応答を必要としているヒト又は動物の治療用組成物であって、前記組成物の有効量をヒト又は動物に投与したとき、該組成物が血管内皮増殖因子に関して免疫原性であるように血管内皮増殖因子の免疫原性ペプチドフラグメント及び製薬的に許容可能な担体を含むことを特徴とする組成物。

【請求項４５】　前記免疫原性ペプチドフラグメントが配列番号３～９の配列を含む請求項４４に記載の組成物。

【請求項４６】　前記製薬的に許容可能な担体がリポソーム、金コロイド及び担体タンパク質を含む請求項４４に記載の組成物。